

民主

若手相次ぎ憲法勉強会

民主党内に憲法をテーマにした若手議員の勉強会が相次いで誕生する。憲法観は異なるが、共通点はイデオロギーにとらわれた旧来型の憲法論議からの脱却を目指す姿勢だ。93年衆院選以降に国会議員になった党内の約8割以上を占める「ポスト55年体制」世代が論議に加わることで、「憲法観がバラバラ」とやゆされがちな党のイメージを変えたい狙いもあるようだ。

2日に発足した「リベラルの会」は、集団的自衛権の行使に慎重な中堅・若手約50人が参加。発起人の一人で当選1回の本多平直衆院議員は「武力行使に抑制的な考え方を持つグループが（党内に）一つあってもいい」と語る。

今月末には長島昭久氏ら当選1回の衆院議員18人による「創憲を考える1期生の会」が初会合を開く予定。集団的自衛権の限定的な行使を認める議員が多いが、「結論を決めて論議に入るのは生産的ではない」（長島氏）と、意見集約を目的としない考えだ。

集団的自衛権の問題では対照的な両者だが、「創憲の会は良識的な中間派」（本多氏）「リベラルの会の思いもよくわかる」（長島氏）と互いに理解も示す。党内対立に結びつきがちなベテラン世代の安保論議と一線を画したい思いもにじむ。【平元英治】

集団的自衛権で対極も…対立避け互いに「理解」